小樽運河をふるさとの景色に：
変わらぬ景色の安心感：運河も道路も街並みも変わったのに倉庫群は昔の姿残す

撮影：2009年10月（北海道小樽市）

◆運河あっての観光地小樽

1960年代の運河埋め立てに対する保存運動が、全国規模で高まり、1983年に入って元々の運河の半分は埋め立てを開始、1986年には小樽臨港線が開通し、現在の姿となりました。今や一大観光スポットに成長したとはいえ、市の人口は1964年のピーク20.7万人から激減し、2009年には13.5万人になりました。

◆自立する都市をめざして

外国人観光客が増えるのも時代の流れですが、市民自らがわが街小樽の歴史と文化を大切にし、運河周辺のみならず、さらに小樽全体へと目を向ける視点が求められます。

国土文化研究所　特任研究員　岡村幸二（JRRN会員）